

## ⑩平成30年7月豪雨災害における高速道路災害復旧事業

受賞機関 西日本高速道路株式会社 中国支社

**キーワード** 災害復旧、関係機関との連携、早期復旧

### 全建賞審査委員会の評価ポイント

平成30年7月豪雨により甚大な被害が発生した中国地方の高速道路を、関係機関と連携を図りながら早期復旧をした取組み。早期に被災状況を把握して復旧計画を策定し、啓開作業を工夫して行うことにより、緊急物資輸送のための経路を迅速に確保した点や、大規模な盛土崩壊が発生した広島呉道路において、採石盛土などの工法工夫、JRとの連携による施工の効率化を図った点が評価された。

### 1. はじめに

平成30年7月豪雨により、中国地方では河川の氾濫や土砂災害により甚大な被害が生じた。西日本高速道路株式会社中国支社が管理する高速道路と一般有料道路においても、雨量基準の超過に伴い、最大で全管理延長の約68%にあたる718kmが通行止めになるとともに、区域外からの土石流の流入や盛土の崩壊により多くの被災を受けた。

### 2. 事業の概要

被災箇所においては、高速道路の早期復旧に向け、関係機関と連携を図りながら、迅速かつ効率的な復旧作業を実施した。

山陽自動車道の応急復旧作業においては、緊急車両等の通行を最優先とし、本線に流入した土砂・流木を片側車線に寄せ、最低1車線を確保した状態とし、片側交互通行により速やかに道路啓開を行った。

また広島呉道路の復旧においては、並行する国道31号、JR呉線も同時に被災したため、国、JR、県、町等の関係機関と綿密な連携を図る必要があった。さらに、被災



緊急車両通行状況（山陽自動車道）

原因の究明及び復旧方法の検討のため、学識者による「広島呉道路災害復旧に関する検討委員会」を立ち上げ、早期の復旧完了を目指した。なお、復旧にあたっては盛土材に排水性の高い砕石を用いるとともに、地下排水を増設・強化するなど、盛土の排水機能を向上させた。さらに一般道への影響に配慮して、盛土材は海上運搬とし、現場への搬入は主に夜間とした。

### 3. 事業の成果

山陽自動車道では、片側交互通行や対面通行により、通行止め開始後約3日で緊急車両等の通行を可能とするとともに、緊急車両の通行中においても継続して土砂撤去作業を昼夜連続で行い、通行止め開始後約8日間で通行止めを解除した。

広島呉道路では、昼夜連続での施工や関係機関との連携により、当初の復旧目標を大幅に早める通行止め開始後約83日間で通行止めを解除した。



被災状況（広島呉道路）

### 4. おわりに

平成30年7月豪雨の経験を踏まえ、土砂災害等の緊急事象発生時に、可能な限り速やかな道路交通機能の確保や復旧作業効率が向上するような管理しやすい道路構造の工夫に取り組んでいくとともに、道路区域外に起因する災害について、道路区域内を主体とした自衛対策に加え、関係する国・県・市町村と連携しながら、道路区域外の対策についても推進し、災害に強い道路を目指していく。

賛助会員 (株)大林組、(株)熊谷組